

## 第2回水稲病害虫発生状況の調査結果について

兵庫県農業共済組合佐用事務所  
JA兵庫西佐用営農生活センター  
光都農業改良普及センター

令和6年7月9日

### 1 気象と水稲の生育状況

6月中旬以降の気温は平年より高く推移しました。まとまった降雨となる日が数日あり、降水量は6月中旬は平年並、6月下旬は平年以上となりました。日照時間は6月中旬は平年以上でしたが、6月下旬は平年以下となりました。

### 2 調査結果（調査日7月9日）

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	一部のほ場で発生がありました。
紋枯病	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
縞葉枯病	調査ほ場では、発生が確認されませんでした。
ウンカ類	複数の圃場で発生がありました。
ツマグロヨコバイ	一部のほ場で発生がありました。
カメムシ類	複数の圃場で発生がありました。例年に比べ発生数が多く、イネカメムシも複数のほ場で確認されていますのでご注意ください。

### 3 これからの管理について

#### ① カメムシ類

カメムシ対策としては、「カメムシのすみか＝イネ科雑草の穂」を作らないことが大切です。出穂の2週間前までに畦畔等の草刈りを実施し、本田のノビエは早めに抜き取りましょう。また、近年増加しつつあるイネカメムシは出穂直後の穂を加害するため、出穂の近い早生品種については見回りをしましょう。カメムシの発生が見られたほ場は出穂後1週間以内に臨機防除としてカメムシに効果のあるトレボン粉剤 DLを10aあたり4kg散布しましょう。

#### ② 葉いもち

6月10日、7月1日がいもち病発生の感染好適日で、ほ場において葉いもちの発生が一部で見られました。常発地ではよくほ場を見回り、葉いもちが発生しているほ場は穂いもち対策として出穂前には必ず予防しましょう。

#### ③ ウンカ類

今回の調査ではウンカ類は複数の圃場で発生がありました。今後の発生状況に十分注意し、基幹防除として極早生品種では出穂前にビームトレモンセレン粉剤DLを10aあたり4kg散布、早中生品種は生育期にアプロードロムダンモンカット F 粉剤DLを10aあたり4kg散布しましょう。また、イネ縞葉枯病発病株は保毒虫の増加や出穂期の発病に繋がるため、できる限り早めに抜き取ってください。

#### ④ 栽培管理

中干し後は、稲の根を健全に保つために、水管理は間断灌水で行い、極端に干すことや水の溜めっぱなしは控えて下さい。